



～建築は、建てることより育てること～

しゅんかん

vol.197

MIZUNO "旬感"だより

令和5年7月号

なつきざす

夏兆す

気候などが
夏らしくなること。

7月の異称＝文月(ふづき・ふみつき)“文披月(ふみひらきづき)”が略されて“文月”になったとする説が有力です。文披月とは“文(ふみ)を広げて晒す月”という意味があり、七夕に短冊に願いごとや詩歌を書いて笹の葉に飾るという風習にちなんでいます。

今月の言葉

『可能性は無限大』

住谷栄之資著“キツザニア流！体験のすすめ”より

見本が用意されていると、人は無意識のうちにその見本を参考にしてしまうもの。見本にとられ新しい発想が浮かばなくなってしまいます。

ちょっと考えてみてください。

目の前のテーブルの上には赤いリングが置いてあります。そして、その脇には赤いリングを描いた有名な絵が展示されています。

もし、その部屋で「みなさん、絵を描いてください」と言われたら、多くの人は展示されている絵を参考にして、赤いリングの絵を描き始めるのではないのでしょうか。

でも、赤いリングを描いた絵が展示されていなければ、部屋の窓から見える風景を描く人がいるかもしれません。壁にかかった時計の絵を描く人がいるかもしれません。それぞれが、自分の目に映ったものを思い思いの発想で描き始めるでしょう。

ときとして、見本は人に制限を与え、限界性を強めてしまうことがあります。その見本が素晴らしいものであればあるほど、それに影響されてしまうでしょう。見本が頭と心を固まらせてしまい、本来誰もが持っているはずの独創性や創造力をせばめてしまう可能性があるのです。

見本がなければ、人は自由な発想でオリジナリティを発揮していきます。失敗を繰り返しながらゼロからモノを作っていきます。おもしろい発想は何もないところから生まれてきます。

(中略)

以前、こんな話を聞いたことがあります。

日本の子どもたちに絵の具でキリンの絵を描かせたところ、全員が黄色いキリンを描いたそうです。一方、絵の具で絵を描いた経験がないケニアの貧しい家庭の子どもたちに、絵の具でキリンの絵を描かせたら、ピンクや水色、緑色など色とりどりのキリンを描いたそうです。

実際にサバンナを駆ける野生のキリンを見たことがあるケニアの子どもが色とりどりのキリンを描き、野性のキリンを見る機会が少ない日本の子どもが黄色いキリンを描く。何とも不思議な話です。



色々な絵の具に好奇心を持って挑んだケニアの子どもたち。きっと、喜々としてキリンを描いたのでしょね。人の自由な発想は、これからもっと大切になっていくと思います。



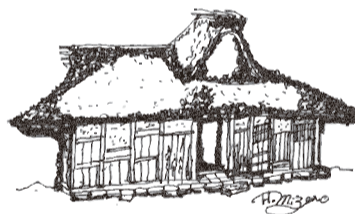
水野博旨



空間設計 ミズノ のデザイン記録 vol.75



前回紹介した片倉館の浴室を紹介します。千人風呂と呼ばれ100人が一度に入浴できるほどの広さです(千人というのは誇張ですね)。幅7.6m、奥行き4.0m、深さは1.1mと深く、大理石でつくられた浴槽の底には玉砂利が敷かれていました。室内の仕上げも石張りやタイルを多用し、ステンドグラスや彫刻で飾られ豪華なものです。露天風呂はありませんが、とても開放的でゆったりとした気分で入浴できます。 スケッチ・文：水野真宏



伝統再築士による

古民家&日本建築講座

伝統再築士とは…次世代に引継ぎたい文化的価値の高い木造物を残すための専門家

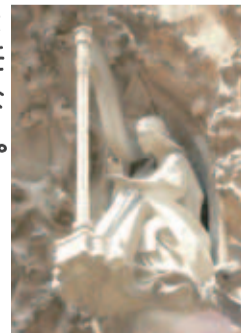
先月に続き、世界的建築家アントニオ・ガウディの最高傑作サグラダ・ファミリアのお話です！



1882年の着工から130年以上経った今も建設が続いているサグラダ・ファミリア。なんと、一人の日本人が40年以上に渡り現在も大きく携わっているのです。彫刻家の外尾悦郎さん。今やサグラダ・ファミリアを語る上で外せない存在と言っても過言ではありません。

外尾さんは大学で彫刻を学び、中学高校の非常勤講師を経て25歳の時に“何か大きなことをやってみよう。”という思いでバルセロナへ向かいました。たまたまサグラダ・ファミリアの現場に大きな石が積んであるのを見て、“自分にも彫らせてください。”と頼み込んだそうです。そして、様々な出来事の末にサグラダ・ファミリアのイエスの誕生を表現した“生誕のファサードのハーブを持った天使”の彫刻を担当することになり、2013年には主任彫刻家に任命され、現在もガウディの残した僅かな資料や模型から彫刻などの装飾を総監督しています。

外尾さんは自身の著書で、“ガウディは本当に人間を幸せにするものを作ろうとしていた。”と語っておられます。近い将来、ガウディの思いが詰まった壮大な作品が完成します。楽しみですね。



株式会社 ミズノ
ホームページ→

新ホームページもご覧ください。

mizuno1950

で、検索
又は→



空間設計 ミズノ
ホームページ→

www.mizuno-architects.com



— ご相談やお問い合わせはこちらへ —

さわやかなすまいに

0120-387-312

mizuno@mizuno1950.co.jp



— 建築は、建てることより育てること —

株式会社 ミズノ

一級建築士事務所

空間設計 ミズノ

“The Wheel” 山本哲也&小松崎健

アイリッシュギターと ハンマードルシマーのコンサート

2023年 7月 22日 (土曜日)

開場 18:00 / 開演 18:30

◆会場: 株式会社ミズノ 1階 ヴィレポヌール (名古屋市港区)

※地下鉄 東海通駅 1番出口より徒歩3分

◆参加費: 2000円 (中学生以下無料)

お申し込み状況に
よっては入場制限
させていただきます。

ご予約は
お早めに!



アイリッシュスタイルで
奏でるギターと、日本屈指の
ハンマードルシマー奏者の
貴重なデュオコンサート。
お見逃しなく!!

ハンマードルシマーとは、
中東のペルシャが起源といわれる打弦楽器。
台形の箱に貼られた数十本の弦を
二本のパチ(ハンマー)で叩いて演奏します。
ピアノの原型ともいわれ
美しい音質を持ちます。



▼お問合せ・お申込みはこちらの電話
FAX・メールへご連絡下さい。

TEL:052-652-6886

FAX:052-661-0653

Mail:mizuno@mizuno1950.co.jp ↑



フリガナ		ご連絡先 TEL () -
お名前		
ご住所	〒 -	
参加人数	名 (お名前)	・



見習い建築士の BOOKS & CINEMAS

■世界でいちばん素敵な建築の教室

この本は、Q&A方式で様々な建築物や建築家についての知識を写真と共に見ることができ、手軽に建築について学ぶことができます。

身近な建築物への疑問、超高層ビルの外壁がガラスで構造上大丈夫なのか?なぜ傾いたビルが倒れないのか?なぜ建築に三角形が多様されているのか?など、気になっていたけど知らなかった内容について知ることができます。また、日本だけでなく海外の有名建築物が多く、どれも実際に見たくなります。

建築を知ることによって普段街を歩いていて見える景色が変わったり、旅行先で見たい景色が増えると思います。僕もまだまだ知らないことだらけですが、これからいろんなことを学び、それから見える景色が楽しみで仕方ないです。みなさんもこの本を読んで、外へ出掛けてみてはいかがでしょうか?

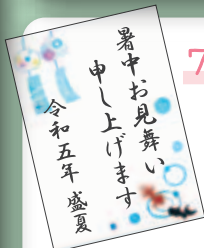


“夏至から数えて11日目” “7月2日うどんの日”

半夏生とうどんの関係!



7月2日頃から5日間を“半夏生(はんげしょう)”と呼びます。かつて農業が盛んだった日本で、畑仕事の区切りや田植えを終える目安となる重要な日とされてきました。半夏生までに終わらせなければ収穫が半減するという“半夏半作”という言い伝えもあり、農家の人々は必死に半夏生まで働いたそうです。そして、この時期に収穫を迎える小麦で作った美味いうどんを食べながら労をねぎらい、暑くなる夏に備えて溜まった疲れを癒し、秋の豊作を願う風習が生まれました。その風習を受け継ぐ意味も込め、讃岐うどんでも誰もが知る香川県が7月2日を“うどんの日”に制定したのです。うどんに限らず半夏生に食べられる食材は地域によって様々で、関西地方ではタコ。“稲がタコの吸盤のように大地にしっかり根を張り育つように”との願いが込められています。また、福井県では丸ごと焼いたサバを一人一匹ずつ家族全員で食べる“半夏生鯖”と呼ばれる風習があるようです。旬の食べ物は栄養価も高いので疲労回復と夏バテ手防止にはピッタリ!この時期にその土地で収穫できる一番美味しいものを食べるのがいいのですね。



7月7日“小暑”が過ぎ梅雨が明けたら、暑中見舞いを出す時期です。

東海地方は、ちょうど23日“文(ふみ)の日”の頃に梅雨明けするでしょうか。暑さ厳しい折に思いがけず届いた便りは、爽やかな気分になってくれます!

～世界一短い手紙～ 歴史的大作『レ・ミゼラブル』の作者ヴィクトル・ユーゴーが『レ・ミゼラブル』の発表後、売れ行きが気になって出版社に送った手紙です。その内容は、便箋の真ん中に“?”のみ。それを受け取った出版社の返事は、なんと“!”だけ。「本、売れるかなあ?」「爆発的に売れています!」を、それぞれ1文字で表現したのだとか。信頼関係あつてのやりとりだと思いますが、とてもユーモラスで粋ですね。

ギネス世界記録にも認定されている!



住宅・店舗の設計・施工・監理
株式会社 ミズノ

〒455-0001

名古屋市港区七番町5丁目3番地

TEL:052-652-6886

FAX:052-661-0653

Web: www.mizuno1950.co.jp

Mail: mizuno@mizuno1950.co.jp

☎ 0120-387-312



・駐車場は社屋南側と郵便局側にございます。
・市営地下鉄「東海通駅」下車、1番出口より徒歩3分

一級建築士事務所
空間設計 ミズノ

〒461-0025

名古屋市東区徳川一丁目10-3

名古屋陶磁器会館2階204号室

TEL:052-982-8316

FAX:052-982-8357

Web: www.mizuno-architects.com

住宅設計・デザインリフォーム・商店設計
コンバージョン(用途変更)・など



・最寄の駅 市営地下鉄 桜通線 高岳駅 (徒歩20分)
・最寄りのバス停 市バス 赤塚バス停・赤塚白壁バス停